

電気通信・放送行政の動き

アルゼンチン共和国における地上デジタルテレビ放送日伯方式採用の決定

【平成21年8月29日の総務省情報通信報道資料から】

現地時間8月28日夕方（日本時間29日早朝）、アルゼンチン共和国フェルナンデス大統領は同国における地上デジタルテレビ放送方式の規格として日伯方式（ISDB-T方式）の採用を決定したことを発表し、総理特使としてアルゼンチンを訪問中の増田元総務大臣に伝達されました。また、増田総理特使の立会いのもと、日本とアルゼンチン間のISDB-T方式導入に向けた覚書の署名式が行われました。

1 アルゼンチン政府によるISDB-T方式の採用

- (1) 総務省は、関係省庁、放送事業者、メーカ、研究機関等と連携しつつ、2006年にブラジルにおいて地上デジタルテレビ放送ISDB-T方式が採用されて以来、専門家を派遣してのセミナー開催、送信機などを搬送しての試験放送の実施、日本の普及状況を把握してもらうためのアルゼンチン関係者の我が国への招聘などの働きかけを継続して行ってきたところです。
- (2) この結果、ブラジル、ペルーに引き続き、今般、アルゼンチンがISDB-T方式の採用を決定し、フェルナンデス大統領よりISDB-T方式の採用が増田総理特使に伝達され、日本とアルゼンチン間のISDB-T方式導入に向けた覚書の署名式が行われました。

2 総務省の今後の取組

- (1) 総務省は、関係機関と連携のうえ、今回署名した覚書に沿って、アルゼンチンにおけるISDB-T方式の円滑な導入に向けて、その必要な方策を協議する共同作業部会を設置し、技術協力、人材育成等の支援を実施していく予定です。
- (2) 今後とも、ブラジル、ペルー、アルゼンチンと連携しつつISDB-T方式の更なる海外普及に努めていきます。

(参考資料)

- 1 日伯方式 (ISDB-T (Integrated Services Digital Broadcasting - Terrestrial))

国際標準となっている地上デジタルテレビジョン放送の規格には、日伯方式（ISDB-T方式）、欧州方式（DVB-T方式）、米国方式（ATSC方式）の3方式が存在します。ISDB-T方式は他の方式に比べて、電波障害や干渉に強く、移動時でも受信が良好であるといった技術的な優位性があること、また携帯端末向け放送（ワンセグ）とハイビジョン伝送が一つの送信機で伝送可能であり全体のコストが安くなり経済的であること等の優位性があります。ブラジルでは2006年6月にISDB-T方式を採用し、2007年12月から放送開始しており、現在22都市（人口カバー率65%以上）で放送されています。ペルーでは、2009年4月にISDB-T方式を採用し、2010年3月の放送開始を目指しています。

2 日伯方式の海外展開の状況

日本は、既に採用しているブラジル、ペルーと連携して、未だ方式決定をしていない南米諸国（チリ、ベネズエラ、エクアドル、ボリビア、パラグアイ等）に働きかけています。アジアではフィリピンに採用を働きかけています。

「日本のICTインフラに関する国際比較評価レポート」の公表

【平成21年8月17日の総務省情報通信報道資料から】

総務省では、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークに簡単につながる利用者本位のスマート・ユビキタスネット社会の実現のため、「スマート・ユビキタスネット社会実現戦略」を推進しています。我が国のICTインフラの現状を国際比較評価することで残された課題を浮き彫りにし、今後のICTインフラ政策に資することを目的に本レポートを取りまとめましたので公表します

1 背景

平成17年及び平成20年に世界における日本のICTインフラの現状を評価した「日本のICTインフラに関する国際比較評価レポート」を各々発表しました。特に前回調査（平成20年）では、“光ファイバ比率”や“3G携帯比率”といった最先端技術の項目等も含めた6分野12項目についての評価を行いました。本年も引き続き、同様の調査を実施した結果、日本は、前回に引き続いて総合評価で第1位となり、ICTインフラの利用料金及び高速性の分野については、世界最先端レベルを維持していると評価ができます。しかし、ICTインフラの普及度及び社会基盤性については、低調な結果となっています。これらの結果から、今後の課題として、引き続き世界最先端のデジタルネットワークの構築を推進や、ICTインフラへの集中的な資源配分の必要性等が考えられます。本レポートをスマート・ユビキタスネット社会実現戦略の目標の着実な達成及び今後のICT政策の推進に活用していきたいと考えています。

2 評価結果と今後の課題（別紙2からの抜粋）

日本は国際ランキングで24か国・地域中第1位。日本のレーダーチャートは図のとおり。

◇ ICTインフラの（1）利用料金、（2）高速性では引き続き世界最先端レベルを維持。

- ・ ブロードバンドの料金及び速度、光ファイバ比率、パソコンのボット感染度、第3世代携帯比率は世界一。
 - ・ 高度なサービス（ブロードバンド、第3世代携帯）で世界を先導。
- 第3世代携帯比率が前回よりランクアップした他、1Gbpsの新しいサービスが反映されたブロードバンド速度が大幅に躍進

◇ 一方、ICTインフラの（5）普及度、（6）社会基盤性は低調。

- ・ 普及率は携帯電話、インターネット、ブロードバンドのいずれも全般的に低調。

ICT投資割合やインターネットホスト数も低調であり、社会基盤としての優先度が低い。

- ・
- 前回調査時に比べ、ほぼ横ばい

<今後の課題>

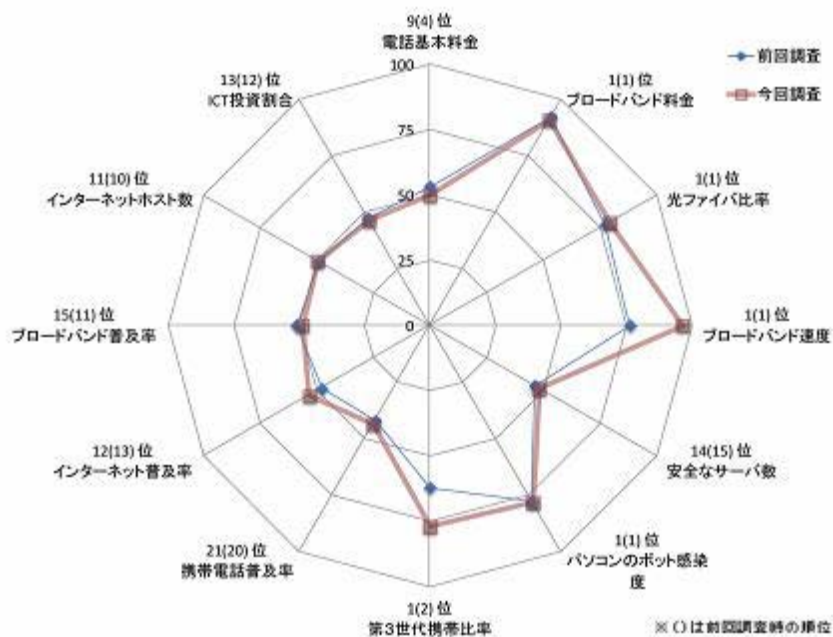
① 普及率の向上

- 「スマート・ユビキタスネット社会実現戦略」に基づくデジタルネットワークの整備
- 過疎地域等の地理的な制約に起因する情報格差（デジタル・ディバイド）解消の推進（2010年度までにブロードバンド・ゼロ地域を解消）

② 社会基盤としての優先度の向上

- 情報化の進展を踏まえた社会資本整備・資源配分の抜本的な見直しやICT利活用の促進

図：日本の各指標のレーダーチャート



添付資料等詳細は、<http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02tsushin02_000008.html>を参照して下さい。

平成21年7月「通信・放送産業動態調査」の結果（速報）

【平成21年8月7日の総務省情報通信報道資料から】

総務省は、この度、平成21年7月に実施した「通信・放送産業動態調査」（一般統計）の結果（速報）を、別紙 (http://www.soumu.go.jp/main_content/000033797.pdf) のとおり取りまとめました。

なお、平成21年9月中旬に売上高を含む確定値をインターネット（情報通信統計データベース）（URL：<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/index.html>）に掲載予定です。

概要

- 売上高見通し指数*1：電気通信事業は、平成21年第2四半期及び第3四半期の両期とも「プラス」。民間放送事業は、両期とも「マイナス」、ケーブルテレビ事業は両期とも「プラス」。
 - 資金繰り見通し指数*2：電気通信事業、民間放送事業及びケーブルテレビ事業いずれも両期とも「プラス」。
 - 業況見通し指数*3：電気通信事業は、平成21年第2四半期は「マイナス」、第3四半期は「プラス」。民間放送事業は両期とも「マイナス」、ケーブルテレビ事業は、両期とも「プラス」。
- *1 売上高見通し指数(DI) = 「増加すると判断した事業者の割合(%)」 - 「減少すると判断した事業者の割合(%)」

- * 2 資金繰り見通し指数(D I) = 「余裕があると判断した事業者の割合(%)」
- 「苦しいと判断した事業者の割合(%)」
- * 3 業況見通し指数(D I) = 「上昇すると判断した事業者の割合(%)」 - 「下降すると判断した事業者の割合(%)」

ARIBの動き

第160回技術委員会(通信分野)を開催

第160回技術委員会（通信分野）が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日 時 平成21年8月26日(水)午後4時00分～5時50分まで

2 場 所 当会第2会議室

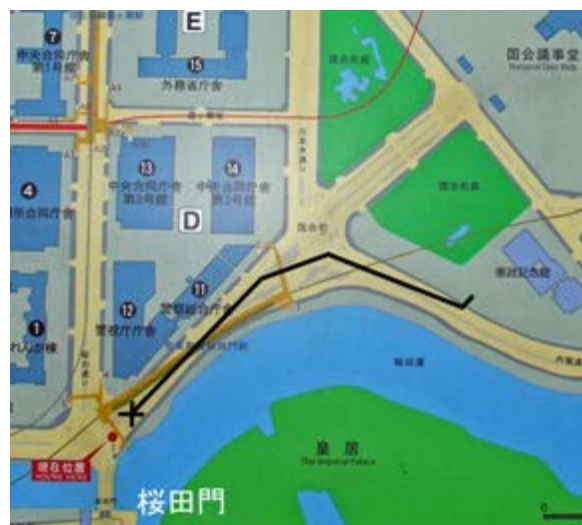
3 議事概要

- (1) 第14回GSC／第7回GRSC会合について報告がありました。
- (2) 第4世代移動通信システム (IMT-Advanced) の無線方式に関する日本提案について報告がありました。
- (3) ARIBが事務局を務める任意団体の動向について報告がありました。
- (4) ロシアICUとのMoU締結について報告がありました。
- (5) 電波政策懇談会報告書について説明がありました。

編集後記

7年ぶりに発生した「エルニーニョ現象」の影響で、冷夏になり、野菜の価格が軒並み高騰しているようですが、多少過ぎしやすいのが救いです。今回もARIB近くの散歩の話題です。

安政7年3月3日（1860年3月24日）、江戸城桜田門外にて水戸藩の浪士らが大老・井伊直弼の行列を襲撃し暗殺した事件、桜田門外の変は、皆様良くご存じと思います。折角の機会なので、襲撃時の当時の状況を調べてみました。近江・彦根藩主井伊家は、国会議事堂に隣接する国会前庭の憲政記念館あたりで、井伊家の門



から襲撃場所の桜田門（現在の桜田門交差点付近）までは、500mもないくらいの距離です。朝の登城途中に、約60名が護衛する大名駕籠行列を、18名が襲撃しました。当日は季節外れの雪で、雨合羽を羽織り、刀の柄に袋をかけていたのが、護衛の侍たちの反撃が遅れた理由と言われています。襲撃開始から直弼殺害まで、わずか数分の出来事だったようです。

現在は、全く面影はありませんが、興味がある方は、交差点あたりを散歩してみるのも面白いかと思います。また、江戸文化歴史検定1級合格者をガイドとする散策ツアーに参加すると一層面白いかと思います。

（敬天愛人）

[ページの先頭に戻る ▲](#)